

歌で作品でファン歓迎

宇野港、坂出・沙弥島
オープニングイベント

瀬戸内 国際芸術祭 Setouchi Triennale 2019

現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2019」（香川県などで行く実行委主催、瀬戸芸）は開幕2日目の27日、宇野港（玉野市）と沙弥島（坂出市）でオープニングイベントを開催。歓迎を受けた美術ファンらは早速、「アートの島」へと繰り出した。

岡山から島々への玄関口となる宇野港では、市民ら約250人がオープニング記念ソング「みずいろせとうち」を合唱。曲を作ったピアニスト山真美さん(32)＝岡山市＝と玉野市内の高校吹奏楽部の演奏に合わせ「ウェルカムトゥせとうち」と歌声を響かせた。

玉野高2年五十嵐朱里さん(16)は「気持ちを含めて演奏できた。自分も直島に



行き、瀬戸芸を楽しみたい」と笑顔で話した。

春会期限定の沙弥島の開会式は観光客ら300人を前に、北川フラム瀬戸芸総合ディレクターが「バラエティー豊かな作品が並ぶ沙弥島は話題を呼びそうだ」とPR。カラフルな大型の網を海岸に立てた「そらあみ」が人気で、倉敷市平田、会社員小幡真姫さん(37)は「見る場所で網の色の濃淡が変わるのが楽しい。潮の香りと風の音も良いアクセントですね」と満喫した様



子。

島へ渡った人たちは目当ての作品を巡った。人気作品がそろった豊島（香川県土庄町）を訪れたイギリスの建築士ヒュー・スコットモ

ンクリフさん(30)は「斬新で独創的な作品ばかり。島の人たちの親切な対応にも感動した」と声を弾ませた。（臼杵正純、松山定道、平松隆）

「幼児から大人までオリジナル曲「みずいろせとうち」を歌って盛り上がった宇野港会場オープニングイベント

カラフルな「そらあみ」を楽しむ観光客「坂出市・沙弥島」